

もはやジャンルではなく手法！

文学賞

特集

# すべての小説に ミステリーを



パズル的な謎解きから始まった推理小説は、その発展とともにジャンルに広がりを見せ、推理小説とミステリータッチの一般小説との境界はなくなりつつあります。というより、もはやミステリーはジャンルではありません。小説をおもしろくする手法のひとつです。当然、ミステリータッチの純文学だってありえます。ですから、ミステリーを書く書かないに関わらず、ミステリーの手法を知っておくことはすべての创作者には有効なのです。

イラスト フクイヒロシ

# 「読むこと」「書くこと」 でしか成長しない

「小説野性時代」（角川書店）連載中から大きな話題を呼んでいた小説講座が、単行本になって大好評発売中の大沢さん。ミステリーを含む「売れる小説」を書くための技術について、お話を聞いてみた。

## できる人が、さらに努力を重ねて到達する世界

——小説講座を始めてみようと思われたのは、どんな理由からですか。

月刊の小説連載の仕事が一段落したときに、「小説野性時代」の編集部から「やってみませんか」と声がかかって。

それで、こちらから一方的に小説のノウハウを語る講座ではなく、ある程度は小説に対する基礎的な経験がある人を誌上で募集し、その方々を受講生として、課題として書いてもらったものを見ながら講義をするという形ならできるかなと思っただけです。

——数々の新人賞で選考委員を務められてきた大沢さんでも、「小説講座」というのは大きなチャレンジだったのでは？

新人賞の選考委員と講座の先生というのは、基本的な立場は一緒だと思います。どちらも、見るのは書き手の「将来の可

能性」。作品を評価するだけではなくて、

受賞できなかった作品についてその理由を説明してあげるのが選考委員の仕事だと僕は思っている。「ここをこうすれば」

「ここが足りなかった」「ここは書き過ぎた」を教えるという意味では、やることは同じだな、と。

とはいえ、同業者やファンから、「こんなことやるなんて、大沢も落ちたな」と言われるのは覚悟してました（笑）。そういった意味では腹も括ったし、企画の揉み込みや生徒の人選は、ずいぶんと丁寧にしたつもりです。

——ここまでのものは初めて！と思えるほど、突っ込んだ内容の講座ですね。だいぶ厳しいことも言われていますが？

参加してくれた生徒さんたちは、いわゆる「アマチュア以上プロ未満」の人たち。1年間の講座で、合計74本の作品を読ませていただきましたが、その中でこれは商業誌に載っていても問題のないレベル



ルだなと思えたのは2、3本だけだった。自分の書きたい作品を書くことと、商品として書店に並んで、読者に損をさせない作品を書くこと。その間には大きな距離がある。その距離を縮めるお手伝いをするために始めた講座ですから、細かく厳しくなるのは当然です。

プロの小説家は「ある程度できる人が、その上でさらに努力して、やっと到達するかしないか」という世界。そのことを、生徒さんにも、読んでくださっている方にも実感してもらいたかった。

## アイデアを教えることは誰にもできない

——小説の制作について聞かせてください。ミステリーに限らず、小説を書くこと

きに、多くのアマチュアが最初に直面する壁が「魅力的なキャラクター作り」だと思うのですが、これに関して、何かコツはありますか。

講座の生徒さんの作品を見ても、「設定」と「キャラクター」を混同しているケースがすごく多かったですね。

「42歳／新宿署勤務刑事／離婚歴あり」なんていうのは単なる設定であって、はっきり言えば、作品の中には必要ないんです。そんなものより、

「ネクタイはいつもシミだらけ」

「食事後1時間は爪楊枝を咥えている」

「部下には皮肉しか言わない」

というような人間性が見える表現を積み重ねてキャラクターを作り上げていくほうが、作品もどんどん膨らんでいくし、ペンも進みやすいと思いますね。

——キャラクターも含め、ネタやアイデアはどのように探したらいいですか。

自分の中で、いろいろなアンテナを張り巡らして、多くの引き出しを持つておくこと。これぐらいしか言えませんね。アイデアの出し方は誰にも教えることはできません。ただ一つははっきり言えるのは、独自のアイデアが出ない人は、プロの作家にはなれないということ。どこかで読んだようなお話にお金を払う読者はいませんから。

誰でもできることを一つ挙げるとしたら、とにかく、いろんな小説を読むこと





おおさわ ありまさ 作家。1956年、愛知県生まれ。79年に『感傷の街角』で小説推理新人賞を受賞。94年、『無間人形 新宿鮫Ⅳ』で直木賞受賞。12年、『絆回廊 新宿鮫X』で日本冒険小説家協会賞受賞。近著『小説講座 売れる作家の全技術 デビューだけで満足してはいけない』（角川書店）好評発売中。

です。「読んでも書けない人」はいますが、「読まないで書ける人」はいないというのが僕の特論。

——大沢さんの誌上講座でも、「月に10冊は読め」と言っていますね。

ミステリーの世界では、ミステリーをある一定の量読んでいない人はミステリーを書くべきではない、というのがルールと言ってもいいと思う。

知らぬ間に、既存のトリックを使ってしまつて、「でも、そのトリックが用いられた作品、私は読んでいないから」は通用しない。知らないこと、読んでいないことは、プロの作家としては既に罪なことです。

——ミステリーを書くとき、特に初心者陥りがちなのが、「視点」の問題。どうしてこのジャンルでは、こんなに厳しくこだわるのでしょうか？

ミステリーというのは、本格だろうとハードボイルドだろうと、とにかく「論理の一貫性」が要求されるジャンルで、フェア、アンフェアという問題があるからです。犯人の視点で書いていて、語り手でもある犯人が自分は犯人ではないと語ったりすれば、読み手を混乱させるばかりです。これはミステリーではアンフェアです。

こういった視点のブレは、本を読むより映像を楽しんできた人が陥りやすいミ

スです。本を読んできた人は、「本来、あってはいけない視点」にすぐ気がつける。逆に映像しか見てきていない人は、一つのシーンを複数の視点（カメラ）で撮ることに慣れてしまっているので、おかしい視点に気がつけない——。そういった意味でも、小説を書くことを志す人は、とにかくいろんな小説を読むことが大切だと言えるでしょうね。

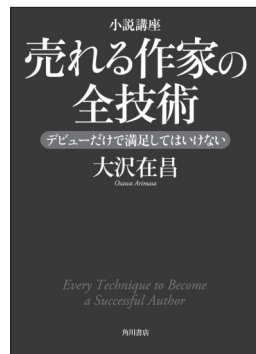
## 「書く」と「読む」の反復 それが作家の孤独な作業

——これから初めて小説を書くという人は、何から始めたらいいでしょうか。とにかく「書く」ことだと思います。

書くことでしか小説は上達しないから。そして「読む」こと。既存の小説を読むことも大切だけど、自分の書いたものを読むこと、いわゆる「推敲」は本当に大事。推敲を重ねることで、最初は3行かかっていただけものが、2行になり1行になり、どんどん正しい表現になっていく。正しい情報を過不足のない文字量で伝えるのが小説の正しい表現で、そのための技術は、「書くこと」と「読むこと」の反復でしか熟達することはないんです。小説家の仕事は、そんな地味で暗い「反復」がすべて。考えてみれば、つまらない仕事だよ（笑）。

それと、特に初心者の方にアドバイスするのなら、推敲の際に「時間を持ち

第一部では大沢在昌さんが33年間で蓄積した技術を惜しげもなく公開。第二部では受講生の課題を実例に、作品の質を上げるためのアイデアを指摘する。



『小説講座 売れる作家の全技術 デビューだけで満足してはいけない』（角川書店／1,500円＋税）

なさい」ということ。慣れないうちは、一つの作品を書き上げられたことがうれしくて、自分の作品に酔ってしまうもの。冷静に読めないから、「えっ？」というようなミスや、物語上の矛盾に気がつかない。だから、他人の視線で読めるようになるまで、酔いから冷める時間を持つて推敲に臨んでほしいですね。

——最後に、『売れる作家の全技術』について一言お願いします。

この本の生徒さんはある程度小説を書いた経験のある人たちですから、まったくの初心者が読むと分からないこともあるかもしれない。そんな方でも、「とにかく書く」ことを続けてから読めば、きっと沁み入るように理解できると思います。僕にとつては、たぶん最初で最後の小説講座。だからこそ、未来のライバルに読んでもらいたいね。

他の小説とどこが違う？

# ミステリーってどんな小説？

## 宗家は本格推理

「謎」のあるエンターテインメント小説はすべてミステリーとしてくり、推理色の強い「推理小説」と、謎解きは主眼ではない「サスペンス」とに分けてみました（表1参照）。

推理小説の筆頭格は「本格推理」です。「本格推理」は密室殺人や不可能犯罪などを扱う謎解きプロパーの小説で、別名パズラーと言われるものです。「本格推理」の名付け親は甲賀三郎で、「純正探偵小説論」（大正15年）の中で氏は、純粋な論理的興味を重んずるものを「本格」、異常心理や病的なことを扱っているものを「変格」と呼んで区別しています。

ちなみに「心境小説」でない本来の近代文学のことを「本格小説」と言いますが、「本格推理小説」という言葉は「本格小説」に倣ったもののようです。

戦前まで、推理小説は「探偵小説」と呼ばれていました。探偵が出てきて事件を解決するのが定番だったからです。

表1 ミステリーの分類

推理小説	1) 本格推理
	2) 探偵小説
	3) ハードボイルド
	4) 警察小説
	5) 法廷ミステリー
	6) 医療ミステリー
	7) トラベルミステリー
	8) 放課後ミステリー
	9) 社会派
	10) コージミステリー
	11) ユーモアミステリー
	11) 時代ミステリー
サスペンス	12) 歴史ミステリー
	1) 冒険小説
	2) スパイ小説
	3) ホラー小説
	4) 犯罪スリラー

\*分類は便宜的なもので、ジャンル横断的な作品もあります。

「探偵小説」は、後年ダシール・ハメットを嚆矢とする「ハードボイルド」を生みます。日本ではバイオレンス小説のよう誤解されている面もありますが、他のミステリーとの違いは内面を書かずに内面を表現するという点にあります。「警察小説」は、「探偵小説」では脇役だった警察官を主人公としたもの。それが検事や弁護士になると「法廷ミステリー」、医者になると「医療ミステリー」、乗り物をトリックに使えば「トラベルミステリー」、学校が舞台なら「放課後ミステリー」と分類していくとキリがありませんが、題材や設定が違うだけで、ジャンルとしては同じです。

戦後、それまでの本格推理とは違った作風のミステリーが登場します。それが「社会派」です。「社会派」は松本清張を嚆矢とし、社会性ある話題、問題などを扱ったリアリティー重視の人間ドラマです。こうした重厚で暗いミステリーとは逆、ほのぼのとしたコメディータッチの推理小説が「コージミステリー」です。主人公が普通の主婦だったりして日本ではあまり作例がありませんが、近いジャンルとしては「ユーモアミステリー」があります。「時代ミステリー」は捕物帳など舞台設定が江戸時代以前のもの。「歴史ミステリー」は現代を舞台とし、現代人が歴史の謎に挑む小説です。一方、謎解きの推理色は薄いものの、

## 拡散するミステリー

戦後、それまでの本格推理とは違った作風のミステリーが登場します。それが「社会派」です。

「社会派」は松本清張を嚆矢とし、社会性ある話題、問題などを扱ったリアリティー重視の人間ドラマです。

こうした重厚で暗いミステリーとは逆、ほのぼのとしたコメディータッチの推理小説が「コージミステリー」です。主人公が普通の主婦だったりして日本ではあまり作例がありませんが、近いジャンルとしては「ユーモアミステリー」があります。

「時代ミステリー」は捕物帳など舞台設定が江戸時代以前のもの。「歴史ミステリー」は現代を舞台とし、現代人が歴史の謎に挑む小説です。

一方、謎解きの推理色は薄いものの、

## ミステリーの歴史

推理小説の源流は三つ。16世紀にスペインで始まったピカレスク小説（悪漢譚）、18世紀から19世紀にかけてイギリスで流行したゴシック小説（恐怖小説）、それから民話や童話にもある謎物語です。

これらを土台とし、1841年、最初の探偵小説と言われる『モルグ街の殺人』（エドガー・アラン・ポー）が生まれます。

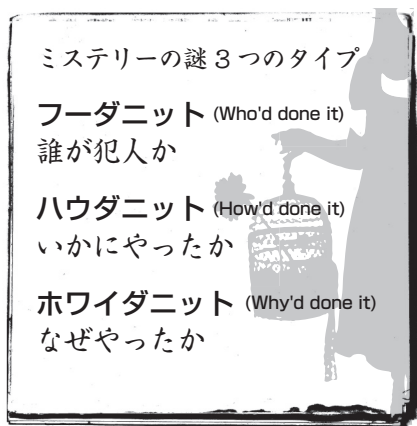
論理的に謎を説明するという小説はやがてガポリオやボアゴベラを生み、各方面に影響を与えます。コナン・ドイルの『緋色の研究』もポーとガポリオの影響で書かれたものでした。

欧米では、第1次大戦が終わって第2次大戦が始まるまでの1918年～1939年、探偵小説が黄金期を迎えます。1920年代にはアガサ・クリステイ『スタイルズ荘の事件』、フリーマン『樽』が書かれ、1930年代にはヴァン・ダイン、エラリー・クイーン、デイクソン・カーといった本格推理作家が人気を博します。

一方、アメリカではダシール・ハメットやレイモンド・チャンドラーらによってハードボイルドが書かれ、同時にそれとは真逆のコージミステリーも生まれます。

戦後の欧米では本格推理の作風がすたれ、1950年代は心理サスペンスや犯罪小説、サイコスリラーが流行し





ハラハラドキドキ、サスペンスフルな小説もあります。「冒険小説」「スパイ小説」「ホラー小説」などです。

また、「犯罪スリラー」は勧善懲悪という大衆小説の定番を逆手にとったような小説。ピカレスク小説、ゴシック小説の流れを汲み、異常な犯罪者側から描いた犯罪心理小説や、人間の悪意や暴力を扱ったノワール（ロマン・ノワール）、サイコスリラーなどがあります。

ミステリーの謎には、

「フーダニット」誰がやったのか  
「ハウダニット」いかによったのか  
「ホワイダニット」なぜやったのか  
の三つのタイプがあります。

「フーダニット」の典型は謎解きプロパの本格推理です。犯人は分からず、そ

れを探偵や刑事が暴いていく形式です。

「ハウダニット」は「どのように」に力点があるタイプで、犯人は序盤で分かっていることが多いのが特徴。「刑事コロンボ」「古畑任三郎」シリーズのような倒叙型もハウダニットです。

倒叙型とは、最初に犯人が明かされ、その後、犯行が暴かれたり、アリバイが崩されたりする形式を言います。

「ホワイダニット」が問題とするのは、犯人の動機です。犯行のきっかけに人間らしいという人間くさい動機を与え、それによって深いドラマに仕上げます。

「フーダニット」「ハウダニット」「ホワイダニット」は独立した要素ではなく、どの要素を主眼とするかはありますが、ミステリーには三つとも必要です。

ただ、パズル的な密室殺人や不可能犯罪では「フーダニット」と「ハウダニット」が重要なに対して、現代のミステリーでは「ホワイダニット」がもっとも重要になります。それは動機の設定が甘いと、どんなに巧妙なトリックを思いついても、「So What」(だからなんなの?)と言われてしまうからです。



ミステリーは作者と読者の知的ゲームであり、ゲームであれば、そこには共通のルールが必要になります。

## ノックスの十戒

① 犯人は物語のはじめのほうで登場している人物でなければならない。

② 探偵方法に超自然の能力を用いてはいけない。

③ 犯行現場に秘密の抜け穴や通路を使つてはいけない。

④ 未発見の毒薬やむずかしい科学上の説明を要する装置を犯行に利用してはならない。

⑤ 偶然や第六感で、探偵は事件を解決してはいけない。

⑥ 探偵自身が犯人であつてはいけない。ただし犯人が探偵に変装して、作中の登場人物をだます場合はよい。

⑦ 探偵は読者に提出しない手がかりで解決してはいけない。

⑧ 探偵のワトスン役(物語の記述者)は自分の判断をすべて読者に知らせなければならない。

⑨ 双生児や一人二役の変装は、あらかじめ読者に知らせておかなければならない。(藤原幸太郎『世界の名探偵50人』)

謎が解明できるようフェアなかたちで手掛かりを出し、読者が納得できるように論理的に解明せよということですね。

(注)「十戒」の⑤は割愛。また、「ヴァン・ダインの二十則」というものもありますが、似た内容なので省略しました。

ます。一方、東西冷戦の影響もあってスパイ小説も生まれました。

日本では明治20年代、黒岩涙香によってガボリオやボアゴベが翻案されて探偵小説が人気となり、大正12年、江戸川乱歩が登場。「二銭銅貨」は初の国産探偵小説と言われています。

昭和20年代は、横溝正史、高木彬光に代表される本格長編が人気となり、その中から山田風太郎、鮎川哲也らが出てきます。

昭和30年代は松本清張など社会派の時代。清張作品では読者にも起こりうる事件が圧倒的なリアリティーで描かれており、それまでの推理小説の作風を一変させます。

清張の活躍は、佐野洋、三好徹、森村誠一、夏樹静子らを生み、国産ミステリーの黄金時代を作ります。

その後、ハードボイルドでは生島治郎、大藪春彦、大沢在昌、北方謙三が登場し、トラベルミステリーの西村京太郎、ユーモアミステリーの赤川次郎などジャンルが拡散。女流では宮部みゆき、高村薫、桐野夏生ら人気作家を輩出します。

平成になると、戦前なら本格に対して変格と言われたホラー小説やファンタジーがブームとなります。

こうしたジャンルの浸透により推理小説でない小説にもミステリーの手法が応用されるようになりました。今やミステリーはジャンルではなく手法と言ったほうがよさそうです。

## ミステリーを書く作法

# 小説の視点って何？ 何が問題なの？

### フェアプレイは視点の統一から

東川篤哉の『密室の鍵貸します』の中に、こんな一節があります。

それじゃ、いったい戸村流平の視点や刑事の視点を自由に使い分けられることができるおまえという存在はいったい何様なのだ？ そんな読者の疑問が聞こえてきそう。

この物語の語り手は誰なのだ？

その問いに対する答えは、何種類か考えられる。この本の背表紙に偉そうに名を掲げている「東川なにかし」とかい人物が語り手であると考えていただいても結構だし、登場人物のなかの誰かと考えてもまったくいいだろう。あるいはミ

ステリ世界でよくいわれるところの《神の視点》という考え方もある。

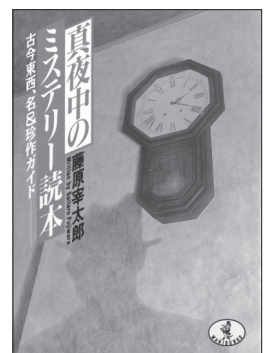
(東川篤哉『密室の鍵貸します』)

形式について作者が作中で補足するというのも変ですし、『神の視点』はミステリーだけの用語ではありませんから誤りと言っていると思いますが、これはデビュー作、つまりアマチュア時代に書かれたものですから、視点についてあれこれ悩んだ揚げ句、そのことについてつい書いてしまったというところでしょうか。ただ、そう思ってしまうのも無理もないほど、ミステリーの世界では視点についてうるさく言われます。それはミステリーには「フェアプレイ」という考え方があるからです。

前出の「ノックスの十戒」にも似たことが書かれています。「ヴァン・ダインの二十則」(の2)にはこうあります。

作中の犯人がしかけるトリック以外に、作者が読者をペテンにかけるような記述をしてはいけない。

(藤原幸太郎『真夜中のミステリー読本』)



藤原幸太郎  
『真夜中のミステリー読本』  
(ワニ文庫)

叙述トリックは別として、視点に関する理解がないと、最初に神の視点で「和佳は男性だ」と書き、その後、「犯人は女性」と断定したうえで、最後に「犯人は、本当は女性だった和佳」と書くようなアンフェアをしてしまいます。

探偵の視点で書いて、「和佳を『かずよし』と読んでしまった結果、和佳を男性だと思ってしまったが、実は『わか』だった」というのであればいいです。しかし、客観的な神の視点で「和佳は男性だ」と言われれば読者はそう思ってしまうから、あとで「女性だった」と撤回されても納得できません。

こうした事情から、ミステリーやミステリーの要素のある小説を書くときには、視点をプラさないことは必須の条件になります。

### 神の視点は前世紀の遺物

文芸用語の「視点」とは、誰の目をカメラ代わりにして語っているかということです。

## トリックがかぶると致命的

ミステリーを書く場合は、過去に書かれたトリックについて知っておく必要があります。でないと、著名な作家が百年も前に考えたトリックと同じものを思い付き、そうだと知らずに悦に入ることになりかねません。

とはいえ、誰かが一度使ったトリックは使えないかというとそうではなく、名作の中では大きなトリックとして扱われていたものを小ネタとして使うとか、その逆パターンとか、アレンジの仕方によっては再利用できます。

そのためにも、過去の作品をたくさん読んでおきましょう。何冊読めばいいか一概には言えませんが、五百冊は読んでおきたいです。

そのうえで言うと、物理的なトリックについては既に何十年も前に尽きたと言われています。

しかし、心理的なトリックもありまして、トリックそのものはさして凝ったものではない使用済みアイデアのアレンジでも、ホワイダニットを追求するなどしてエンターテインメントとしておもしろく仕上げれば、広義のミステリーとして成立しますから、まだまだいかようにも広げられます。

もっとも、本格推理に絞っても過去に書かれた作品は膨大にあり、すべてを読むわけにはいきません。そこで、ここではトリックに関するネタ本を二つ紹介します。



東川篤哉『密室の鍵貸します』  
(光文社文庫)



では、誰の目かを基準に、視点を二つに分けてみましょう。

## ① 神の視点（作者視点） ② 人物視点

① は、作中の人物を通して書き方ではなく、作者による説明です。

或日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになつていらつしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊（すい）からは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れております。極楽は丁度朝なのでございましょう。

（芥川龍之介『蜘蛛の糸』）

この書き方から察するに、視点人物はお釈迦様ではありません。芥川本人、もしくは芥川と同一と言つていい、作中にはいない誰かということになります。

神の視点の特徴は、どんな人物にもなり変われ、どんな人物の心の中も分かるまさに神のような立場で書けること。便利で書きやすい面もありますが、視点があるところ変わって読んでいて忙しいうえに、作者による説明ばかりで説得力がなくなるという弊害があります。

このような神の視点は19世紀小説に多

い書き方で、古典には存在しても今はまずありません。大沢在昌『売れる作家の全技術』にもこうあります。《私が選考委員を務める新人賞では、神視点の作品はすべて落選にします。》

## 人物を通して書く人物視点

人物視点は、特定の人物を通して、その人物の見たもの、聞いたもの、感じたことを書いていく形式で、細かく分ける以下の二つがあります。

## ②-1 一元視点 ②-2 多元視点

「一元視点」というのは視点人物が一貫して一人の形式です。一人称は一人称一元視点であり、三人称一元視点という形式もあります。

午前十時を過ぎて風がでた。

海岸を見下ろす県立病院のロビーに、師走の慌ただしさはなかった。葉の順番を待つ患者の姿も、見舞客の姿も、風を巻いて走る看護婦の姿もない。いつ来てもそうだ。窓に鉄格子の嵌まるこの病院には、外と混じり合うことのない空気が時間を滞留している。

——今年がこれが最後だな。

（横山秀夫『動機』）



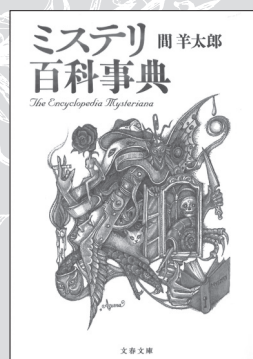
横山秀夫『動機』（文春文庫）

ここに書かれたことは、すべて主人公である貝瀬が感じたことであり、別の人物の知覚でもなければ、作者の横山秀夫が思ったことでもありません。

なお、視点の起点となる人物（視点人物）は主人公であることが大半ですが、形式主人公というか、ワトソンの脇役を語り手にする場合もあります。

「多元視点」は章など大きなまとまりでは一元視点ながら、視点人物が変わったり、入れ替わったりするパターンですが、局所的には一元視点は守られていますから、基本的には一元視点と同じです。

このように人物視点では特定の一人の人物に背後霊のように密着して語りますが（視点人物の内面を代弁すると言つてもいいですが）、人物視点で書きながら、部分的に客観描写を入れる場合があります。たとえば、語り手はつきりしない（敢えてはつきりさせていない）導入部や話のアウトラインや大きな情景を客観的に描写、または説明する場合です。ただ、これをやる場合もアンフェアでないよう意識的にやるのが肝要です。



間羊太郎  
『ミステリ百科事典』  
（文春文庫）



江戸川乱歩  
『探偵小説の「謎」』  
（現代教養文庫）

一つめは、江戸川乱歩『探偵小説の「謎」』（現代教養文庫）。ここでは八百余のトリックが九つの大項目に分けられて紹介されています。

もう一つは、間羊太郎『ミステリ百科事典』（文春文庫）。この本の巻頭の対談で宮部みゆきは、《ネタが割られていて興味を失うどころか、これを読んで面白そうと思って、あわてて探して読むことのほうが多くて。》と絶賛。

また、北村薫も大谷羊太郎の言葉を引用して、《自分はあんまりトリックを知らないから、よく知られているトリックをそうと知らずに書いて投稿して、それはもう使われているよ、となったら困るので、「ミステリ百科事典」の連載を読んで研究して、デビューに成功したと。》と書いています。

ネタ本というより読者案内として読むといいでしょう。

## 創作の手順とポイント

# ミステリーってどう書けばいいの？

### 創作の手順

ミステリーもミステリー以外の小説も、創作の手順に大きな違いはありません。

- (i) ネタ探し(アイデア出し)
- (ii) アウトラインを決める
- (iii) 文献調査・取材
- (iv) プロット(ストーリー)
- (v) 執筆

ネタとアイデアはほぼ同じ意味ですが、ネタは素材そのままであるのに対し、アイデアは料理方法と考えてください。

とある殺人事件をネタとして使うと決め、ではそれをベースにどんな小説にするのか、ホラーっぽくするのか、ユーモアミステリーにするのか、殺人事件のどの面をクローズアップするのか、恋愛の要素を絡めたりするのか、どんなテーマを盛り込むか……といったことがアイデアになります。

その後、ざっくりとした骨格を決め、書くときに必要なことを調べます。たと

えば、「トレッキングのときに起きた殺人事件」を書くのであれば、トレッキング

グというのはどういうもので、どんな用具が必要で、やってみるとどんな気分になるものなのか……等々がリアルに書けるよう資料を読み込んだりします。あるいは、身近にトレッキングを趣味としている人がいれば話を聞いたりします。これを取材と言います。

その際、興味が持てない分野だったり自分には手に負えない分野だと分かったら、ネタの変更をします。

その後、どの程度、プロットを作り込むか、あるいはまったく作らないかは好き好きですが、慣れないうちはいったんきっちり設計図を描いてみて、しかし、書く段になったらプロットにはとらわれずに書くといいと思います。

ただし、謎解きメインの本格推理の場合は、ヒントがアンフェアだったり、解決編に入ってから「実はこういうことがあって」と言い出すあと出しはいけませんから、ある程度はプロットを作っておく必要があります。

それらが終わったら執筆に入りますが、

この時点で(執筆に入ってから)取材が足らなければ追加し、書きながらストーリーを微調整したりを繰り返します。

### ミステリーの作り

ここでは昔話「桃太郎」を使い、ミステリーとそうでないものの作り方の違いを見ていきましょう。

まずは「桃太郎」のストーリー。

○おじいさんとおばあさんがいる。村は鬼に荒らされている。

○桃太郎が生まれ、鬼退治に行く。途中でキジ、サル、イヌを供にする。

○鬼ヶ島に行き、鬼退治をする。

○村に財宝を持ち帰る。

最初に「鬼退治」という目的が明示され、最後にそれが実現しています。話は時系列で進み、あと戻りはしません。子ども向けの物語ならではの作りです。

これをミステリー仕立てに作りかえてみましょう。

ミステリーであれば、まずは事件が起きます。そこに警察や探偵が現れ、謎が提示されます。

○おじいさんとおばあさんが殺されている。それを桃太郎が発見します。

## 伏線とミスリード

トリックには「犯人が仕掛けるトリック」と「作者が仕掛けるトリック」とがあります。

「犯人が仕掛けるトリック」には、氷を凶器に使うなどの物理的トリックやアリバイトリック、密室トリックなどがあります。

「作者が仕掛けるトリック」には、習慣や常識、思い込みを利用した心理トリックや、時系列を変えることで読者を勘違いさせたり、倒叙と見せて実は真犯人がいるといった叙述トリックがあります。

こうしたトリックを成功させる鍵は、いかにして伏線を張るかにあります。

ミステリーを書いて一番苦労するのは、トリックを考えることでも、ドンデン返しをひねり出すことでもなくて、手がかりをいかにして、読者の目につかないように、かつ記憶の隅にとどまっているように書き入れるか、ということなのです。

(中略)

手がかりの埋め方の具体的な方法としては、「並列法」があります。これはどういうものかというと、手がかりをひとつだけぽんと出すと目立つから、他のいろんなものと一緒に並べる手法です。

「机の上には空のインクびん、万年筆、財布、インク消し、スポンジ、電話が



桃太郎	おじいさん、おばあさんの遺体と、そのそばに金棒を発見 A1	おじいさんは誰かと言いついていたという証言を得る A2	金棒の持ち主と見られる鬼を追って鬼ヶ島に行く A3	なぜか鬼に逆襲され、囚われる。鬼は犯人でないと分かる A4	真犯人の手掛かりに気づく。真犯人を割り出して裁く A5
サル	鬼が村を襲い、財宝を奪う計画を立てているのを知る B1	きびだんごを盗み食い、咎められ、おじいさんを殺してしまう B2	現場に金棒を置き、金品を隠し、鬼の犯行に見せかける B3	鬼に、桃太郎が征伐に向かっていると情報を漏らす B4	桃太郎の気転と洞察によって真犯人であることが暴かれる B5
鬼	村の近くで酒を飲み、声高に村を襲う計画を話してしまう C1	目が覚め、金棒がないことに気づくが、そのまま村を襲う C2	金銀さんごなどを村人から盗み、鬼ヶ島に凱旋する C3	桃太郎急襲の知らせを受け、待ち伏せをして逆襲する C4	疑いを晴らしてくれたお礼に、桃太郎に村の財宝を返す C5

といった感じででしょうか。しかし、これで「犯人は鬼でした」ではおもしろくなりませんので、真犯人はサルということにしましょう。あとは結末から逆算して、サルはどのようにして犯行をしたか、どのような工作をしたか、そして、どのような手掛かりを残したかといったようなことを考えていきます。

サルは別の誰かが疑われるような工作をしたでしょうし、また、「おじいさん

と誰かが言い争っていた」といった証言も必要になってくるでしょう。

では、全体の構成やバランスを見失わないためにも、登場人物ごとに上記のようなプロットを作っておきましょう。

短編なら「桃太郎」のストーリーだけにしてもいいですし、長編なら「A1、C1、A2、C2……」のように「桃太郎」と「鬼」のストーリーを順番に書く手もあります。また、冒頭に無視点で、B2を書くのも定番です。

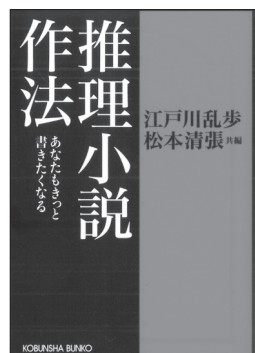
問題は動機です。「犯人はサルで、動機は空腹」ではどうにもなりません。

たとえば、「サルは非常に品行方正なのですが、魔が差し、きびだんごを盗み食いしてしまう。それをおじいさんに咎められ、小さな罪を隠すために大きな犯罪に手を染めてしまう。アイデンティティーを守るためには人は常軌を逸してしまうことがある」とか。

とにかく、謎が解けたときに、新しい世界なり思考なりがぱっと開けてくるのが理想です。



フダニット（誰が犯人か）型のミステリーでは「え？ この人が犯人？」と思わせなければなりませんし、ハウダニット（どのようにやったか）型のミステリーの場合も、物理的トリック、心理的



松本清張「推理小説作法」  
（『推理小説の発想』所収／  
光文社文庫）

トリックを含め、「そういう方法があったのか」というトリックが必要です。そうした知的ゲームもおもしろいですが、それだけでは深みがありません。

一口に言って、つくりごとがひどすぎるのです。生活が書けていないし、人間の性格が書けていない。したがって、物語の中の人物が典型的で、機械人形のような動きしかできない。生きて、血のかよっている、われわれと同じ人間とは思えないのです。（中略）

今までの探偵小説が、トリックとか意外性のようなものにばかり重点をおいて、ほかのことはいっさいおざなり、描写も通りいっぺんなら、動機の点も解決編にチョッピリ出てくるだけというやり方にかねてから疑問を持っていました。

（松本清張「推理小説の発想」）

松本清張の主張は「人間を描け」ということで、これは純文学と同じ。つまり、「社会派」の目指すところはパズルではなく文学だったと言えます。

あつて……」などと描写しておく。そして、ずっと離れた箇所に、「万年筆はカートリッジ式で」という文章を置く。

こうした二つの状況から、「なぜインクびんがあるのか……？」といった探偵の疑問を呼び起こす、というわけだ。

（赤川次郎「手がかりの埋め方」幻冬舎『ミステリーの書き方』所収）

読者の目を逸らすもう一つの方法は、ミスリードです。

ミスリード（誤導）は英米では「ミステイクレーション」「レッドヘリング」とも言う、読者を誤った方向へ導こうとするものです。

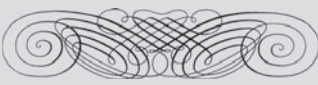
しかし、地の文でウソをつくのはアンフェアですから、心理トリックで読者を誤導することが多くなります。

また、読者を話に夢中にさせるというのも、読者の目を核心から逸らすという意味ではミスリードと同じ効果があります。

そうして伏線、ミスリード、トリックなどで仕掛け、話を終局に導くわけですが、ここで一番の問題は話をどこに落とすかということです。

ミステリーと言わず、すべての小説は「謎が解けて、はい終わり」ではなく、そこには新しい世界があります。

それは動機とも関連してきますが、犯行の理由を知ったとき、そこから新しい世界が開けてくるのが理想です。



野崎六助先生選

# 創作志望者のための 国内・海外 名作ミステリー10作

野崎六助（のざき・ろくすけ） 昭和22年、東京生まれ。作家・文芸評論家。早稲田大学文学部講師。著書に、最新版『ミステリを書く！10のステップ』（東京創元社）、『ミステリで読む現代日本』（書局社）、『山田風太郎・降臨忍法帖と明治伝奇小説以前』（書局社）など多数。



野崎六助『ミステリを書く！10のステップ』（東京創元社）

## ミステリーは時代の産物

——国内・海外の名作を各10作品を選んでいただきました。それぞれどんな作品なのか、また読みとるべきポイントについて教えてください。

ランキングではなく古い順にピックアップしていますが、年代順に読むというより、まずは作家の魂に触れてほしい。技術的に優れているだけでなく、作者の熱がこもった作品が不朽の名作として時代を超えて残っている。今回はそういう観点で選びました。

『不連続殺人事件』は、登場人物がみんな怪しく、誰が犯人か分からない。設定そのものがトリックになっていて、そのトリックを不自然に感じさせないリアリティーがちゃんとあるんです。戦後の混乱した時代にしか成立しなかった作品で、坂口安吾の精神が出ている作品です。

『妖異金瓶梅』は山田風太郎の世界観が

あらわれた特殊な作品です。ハーレムで起る殺人事件という異常な世界を設定することでミステリーのルールを変えてしまった。書き方の約束事にとらわれるとアイデアがしぼめますから、こういう手もあることを知っておくといいですね。1950年代の作品ですが、現代にも十分通用する作品です。

——やはり作品の世界観に時代性は大きく関係しているのでしょうか。

ミステリーは時代と関係ないと思いついてるなら、それは違います。

『憎悪の化石』は、アリバイ破りがとても面白いだけでなく、作者は刑事が足を棒にして捜査してまわる過程で戦後の東京の風俗を見事に映している。素晴らしい作品です。本格派の第一人者というイメージが強い鮎川哲也ですが、作者の社会に対する目がちゃんとある。

——書き方として参考になる作品はありますか。

赤川次郎の『ひまつぶしの殺人』は、

場面構成、セリフ、視点の切り替えのお手本のような作品です。キャラクターと背景を無駄のないセリフで紹介し、会話をくどくど書かずに省略しながら、ぱつと視点を切り替えて物語を別のところに持っていく。構成のイメージがしやすいだけでなく、軽く読める書き方の実例に触れたいなら最適です。

——最近の作家でおすすめの作品はありますか。

次の三作品は一生に一度書けるかどうか分からないぐらい特別な作品です。

島田荘司の『占星術殺人事件』は、トリックの破天荒さがすごい。これをついたらこれ以上はなかなかできないと思います。また、山口雅也の『生ける屍の死』は、死者がよみがえるゾンビの世界を舞台に起こる殺人事件。SF的な設定を使って謎解きミステリーが書けるという例を見せてくれた作品です。

京極夏彦の『鉄鼠の檻』は、禅問答がだんだん広がっていき謎解きの世界にな

る。このテーマは熟練の作家でもなかなか書けない。ここまで書かれると、あとは退散するしかないというレベルの作品です。

## 名作は創作の道しるべ

——読者の予測を裏切るトリックを書くにはどうすればいいのでしょうか。

最近の作品で、予測不能という意味では井上夢人の『ラバー・ソウル』は特出しています。タイプとしては叙述トリックで書かれており、最後でひっくり返すという簡単な方法なんです。読者は最後までどこでひっくりかえすのか分からない。完全にだましきるんです。そのために作者は、証言インタビューによるドキュメンタリータッチという手法をとっている。表現の一例として、こういう書き方があったのかとひびきをたたくような作品です。

——初心者がミステリーを書く場合、特



に参考にしやすい作品はありますか。

作家は普通、創作秘話などは語りたがらないものですが、伊坂幸太郎は分かります。語ってくれますね。作品とあわせてインタビューや解説本を読むと創作のヒントに役立つと思います。

『死神の精度』は短編連作ですが、それぞれに違う味わいがありながらもひとつにまとまっている。構造や短編連作のお手本になる作品です。

最後にあげた岡本綺堂の『半七捕物帳』は、これだけは！という古典の名作。推理小説は、これに始まりこれに終わるというてもいい。繰り返し読んでも発見

があり、創作に迷ったときの道しるべにもなる作品です。

## 黄金期から現代までの海外の傑作

——海外の作品についてはいかがでしょうか。

まずミステリーの黄金期（1930年代）のアメリカ、イギリスから二作選びました。一作目はエラリー・クイーンの『Yの悲劇』。この作品には章ごとに時間と場所が明記されています。黄金期の普通の手法です。それをそのまま使うというより、頭の中で時間と場所を把握しな

から書く重要性が学べる作品です。

デイクスン・カーの『火刑法廷』は謎解きミステリーなんですが、論理的な解決が終わったあとにオカルト的な解決もできます。二通りの解釈ができるというわけです。創作中級者でも書くのが難しいスリリングな展開です。ぜひ堪能してほしいですね。

——ミステリーには大掛かりな殺人事件が必須だと考える創作者もいると思いますが、いかがでしょうか。

殺人がなければミステリーじゃないと勘違いして、現実離れた殺人事件を書く初心者がいますが、そうではない。

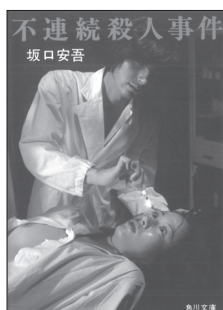
パトリシア・ハイスミスの『殺人者の烙印』などは、夫婦の心理描写と殺人者の幻想がうまくとけあっている作品。ある小説家が妻への殺人願望を創作メモとして書いていたのが、実際の妻の失踪をきっかけに、彼が疑惑の対象となり、事件がメモのとおりになったような進展をする。心理的描写に圧倒的な迫力があり、必ずしも殺人が必要でないことを教えてくれる作品です。

——海外ならではのジャンルというのはあるのでしょうか。

クレイグ・ライスの『スイート・ホーム殺人事件』は、子供たちが探偵になっ

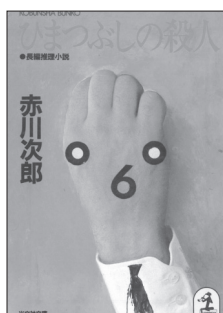
## 国内名作ミステリー 10

- 不連続殺人事件／坂口安吾
- 妖異金瓶梅／山田風太郎
- 憎悪の化石／鮎川哲也
- ひまつぶしの殺人／赤川次郎
- 占星術殺人事件／島田荘司
- 生ける屍の死／山口雅也
- 鉄鼠の檻／京極夏彦
- 死神の精度／伊坂幸太郎
- ラバー・ソウル／井上夢人
- 半七捕物帳／岡本綺堂



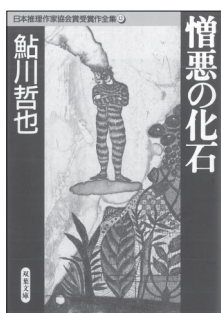
坂口安吾  
『不連続殺人事件』  
(角川文庫)

MYSTERY 01



赤川次郎  
『ひまつぶしの殺人』  
(光文社文庫)

MYSTERY 04



鮎川哲也  
『憎悪の化石』  
(双葉文庫)

MYSTERY 03



山田風太郎  
『妖異金瓶梅』  
(角川文庫)

MYSTERY 02



京極夏彦  
『鉄鼠の檻』  
(講談社文庫)

MYSTERY 07



山口雅也  
『生ける屍の死』  
(創元推理文庫)

MYSTERY 06



島田荘司  
『占星術殺人事件』  
(講談社文庫)

MYSTERY 05



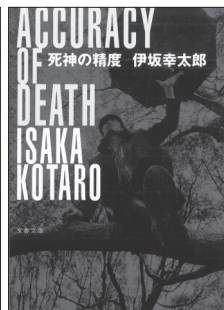
岡本綺堂  
『半七捕物帳 (一)』  
(光文社時代小説文庫)

MYSTERY 10



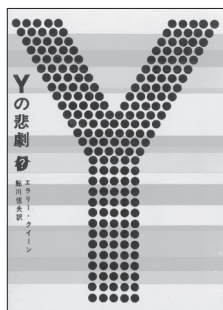
井上夢人  
『ラバー・ソウル』  
(講談社)

MYSTERY 09



伊坂幸太郎  
『死神の精度』  
(文春文庫)

MYSTERY 08



エラリー・クイーン  
『Yの悲劇』  
(創元推理文庫)

MYSTERY 01

## 海外名作ミステリー 10

- Yの悲劇／エラリー・クイーン
- 火刑法廷／ディクスン・カー
- スイート・ホーム殺人事件  
／クレイグ・ライス
- 内なる殺人者（おれの中の殺し屋）  
／ジム・トンブスン
- 殺人者の烙印  
／パトリシア・ハイスミス
- 殺人症候群／リチャード・ニーリィ
- 薔薇の名前／ウンベルト・エーコ
- ミレニアム1（ドラゴン・タトゥーの女）  
／ステイグ・ラーソン
- 鷲たちの盟約／アラン・グレン
- ブラウン神父の童心  
／G・K・チェスタトン

て謎解きをするというコージー・ミステリー（ほのぼのミステリー）の草分け的作品です。日本ではあまり見られないスタイルですね。

——海外ミステリーには、ハードボイルドタッチの名作も多くありますが、特にお勧めの作品はありますか。

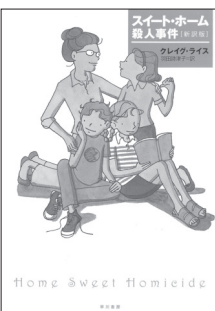
サスペンス・ハードボイルドというジャンルになりますが、ジム・トンブソンの『内なる殺人者（おれの中の殺し屋）』は、一人称小説の凄みを味わえる究極の作品です。とにかく主人公がクレイジーで、完璧なサイコキラー小説です。

また、リチャード・ニーリィの『殺人



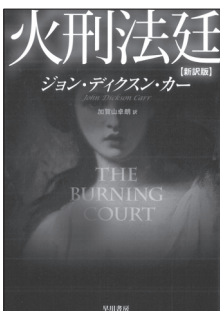
ジム・トンブスン  
『内なる殺人者』  
(河出文庫)

MYSTERY 04



クレイグ・ライス  
『スイート・ホーム殺人事件』  
(ハヤカワ文庫)

MYSTERY 03



ディクスン・カー  
『火刑法廷』  
(ハヤカワ文庫)

MYSTERY 02

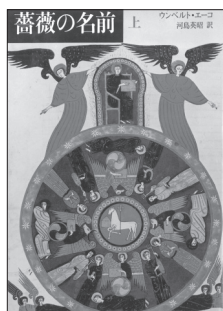
症候群』もサイコキラーの手記で、一人称で書かれています。どんでん返し of 切味のよさ、見事さがなんともいえない作品です。

いずれも客観三人称では書けない究極の作品といえます。

——歴史ミステリーという手法はかなりハードルが高く感じられますが、お手下となる作品はありますか。

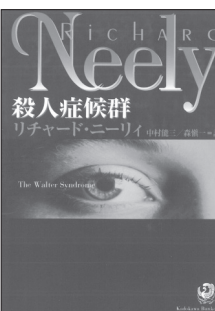
ウンベルト・エーコの『薔薇の名前』は、中世の世界にミステリーを移し替えてこれだけの作品ができるということを証明してくれた作品です。

また、歴史改変ミステリーとして特出



ウンベルト・エーコ  
『薔薇の名前（上）』  
(東京創元社)

MYSTERY 07



リチャード・ニーリィ  
『殺人症候群』  
(角川文庫)

MYSTERY 06



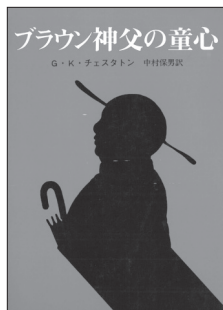
パトリシア・ハイスミス  
『殺人者の烙印』  
(創元推理文庫)

MYSTERY 05

しているのが、アラン・グレンの『鷲たちの盟約』。アメリカがファシスト化したらどうなったかというIF of のミステリーで、歴史的知識と文明批判を通して現代を考える作品です。歴史ミステリーは、膨大な知識量と見識、書く労力や時間が必要ですから、優れた作品からまずはエッセンスを得るといいですね。

——最近の作品で、特徴的なミステリーはありますか。

ステイグ・ラーソンの『ミレニアム』シリーズに代表される北欧ミステリーがすごい勢いで目立ってきています。これらには、テーマがはつきりとある。



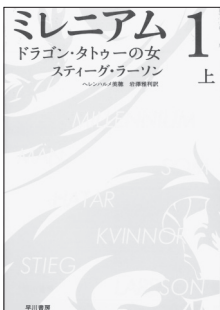
G・K・チェスタトン  
『ブラウン神父の童心』  
(創元推理文庫)

MYSTERY 10



アラン・グレン  
『鷲たちの盟約（上）』  
(新潮文庫)

MYSTERY 08



ステイグ・ラーソン  
『ミレニアム1（ドラゴン・タトゥーの女）』  
(ハヤカワ文庫)

MYSTERY 08

『ミレニアム』では、スウェーデン社会で女性が受けている性的虐待への抗議が隠れたテーマとなっています。決して声高に主張するものではありませんが、ミステリーにはこういう表現もあることを教えてくれます。

古い作品ですが、最後は、G・K・チェスタトンの『ブラウン神父の童心』。これも別格作品で、『半七捕物帳』と同じく、プロが何度読み返しても豊かな鉅脈が埋まっている作品。創作者はいろんなネタを拾って、あれもこれも書きたいと思うでしょうが、そうしたヒントが昔の名作にあるという例です。



# 第12回『このミステリーがすごい!』大賞

## プロの書評家による 推薦コメントが載る

「『このミステリーがすごい!』大賞」は、創刊25年目のガイドブック『このミステリーがすごい!』から生まれたミステリー&エンターテインメントの新人賞。

本当に面白い作品、才能を発掘・育成することを目的とし、2001年に創設。「昨年で10周年を迎え、公募ガイド社主催の賞『2011公募アワード』を受賞しました」(宝島社『このミステリーがすごい!』大賞事務局)。

『このミス』大賞の賞金総額は、文学賞では最高額の1200万円。

「ミステリーを読み込んだ書評家が、読み手のプロの立場で大賞を決定する新人賞であり、1次選考を通過したすべての作品の冒頭部分とともに書評家の推薦コメントがネット上にアップされ、プロの意見を知ることができるのも本賞の最大の特徴」であり、応募者の励みになると好評のようだ。

「選評を受けて欠点を改善し、毎年挑戦

してくださる方も多く、賞全体のクオリティの底上げにも繋がっています」

この賞出身作家の活躍は目覚ましく、宝島社の組織的なマーケティング力も後押しとなり、シリーズ累計1000万部突破の『チーム・バチスタの栄光』(海堂尊)は映画化、フジテレビ系でドラマ化され、『屋上ミサイル』(山下貴光)、『蜂蜜のデザート』(拓末司)、『ラブ・ケミストリー』(喜多喜久)、『死亡フラグが立ちました!』(七尾与史)など続々再現ドラマ化。137万部突破の『四日間の奇蹟』(浅倉卓弥)などベストセラーや映像化作品を多数出していることも応募者のモチベーションを上げているようだ。ちなみに、『このミス』大賞シリーズは累計1600万部を突破している。

## 多くの読者の関心を 惹きつける作品を求む

「『このミス』大賞では、どのような作品が選ばれているのだろうか。」

編集部によると、「エンターテインメントを第一義とした広義のミステリー」

## DATA

主催 宝島社  
原稿枚数 400字詰原稿用紙  
400枚~650枚。  
締切 2013年5月31日  
発表 10月、ウェブサイト上  
賞 大賞=1000万円/  
優秀賞=200万円  
選考委員 大森望 香山二三郎  
茶木則雄 吉野仁  
応募総数  
第10回 394編  
第9回 408編  
第8回 350編

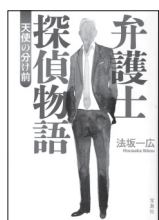
※応募の詳細は51ページ参照。

であり、「年間ベストテン『このミステリーがすごい!』エンタリー作品に準拠するもの」とのことだが、ホラー的要素の強い小説やSFの設定を持つ小説でも斬新な発想や社会性および現代性に富んだ作品であればOKなのだそう。また時代小説であっても、ミステリーとしての要素や冒険小説的興趣を多分に含んだ作品であれば、その設定は問わない。ただ、「『自身の嗜好だけではなく、多くの読者が関心を持つ作品、昨今であれば、人気の江戸もの時代小説など、流行や話題性を考慮した作品を求めています』」

また、映画化できる作品を選ぶ観点から、映像にした際の面白さなども考慮に入れているという。

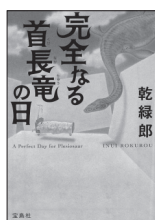
一方、再投稿については「他の賞に落選した作品を応募いただくことは拒みませんが、その場合は長所を伸ばし、短所を直し、よりブラッシュアップされた原稿であることを望みます」

ネットで公開される講評もあるので、これを参考に、新たな作品を作り出すことが受賞に近づく一歩かもしれない。



第10回大賞受賞作  
『弁護士探偵物語』  
法坂一広 ほうさかいこう

弁護士資格を一時停止させられていた弁護士。裁判は終わったものの、その原因となった事件にはまだ何かが残っていた……。ハードボイルドな酔いどれ弁護士、過去の事件に再び挑む! 福岡出身の現役弁護士が描く法曹ミステリー。



第9回大賞受賞作  
『完全なる首長竜の日』  
乾緑郎 けんりくろう

佐藤健・綾瀬はるか主演で映画化決定(2013年初夏)。少女漫画家の和淳美は、植物状態の人間と対話できる「SCインターフェース」を通じて意識不明の弟と対話を続けるが、弟は淳美に自殺の原因を話さない。ある日、謎の女性が弟に接触し、少しずつ現実が歪みはじめる。

## 選考の流れ

### 一次選考

第10回は23編が一次通過。8月、ホームページ上で発表。7名の選考委員名と各作品への講評も公開。

### 二次選考

第10回は6作品が通過。9月、ホームページ上で発表。3名の選考委員名と各作品への講評も公開。

### 最終選考

『このミス』大賞発表。10月、ホームページ上で発表。4名の選考委員名と各作品への講評も公開。翌年1月大賞作品刊行、授賞式。



## 江戸川乱歩賞

大型新人を輩出する  
推理作家の登竜門

日本のミステリーに大きな功績を残した推理小説家・江戸川乱歩。その私財の100万円を投じて1955年に設立された「江戸川乱歩賞」は、戦後に始まったミステリーの新人賞ではもともと古く、推理作家の登竜門として知られている。これまでの受賞者には、陳舜臣、西村京太郎、森村誠一、高橋克彦、東野圭吾、真保裕一、桐野夏生、池井戸潤、高野和明など、そうそうたる顔ぶれが揃い、数多くの大型作家を世に送り出している。

主催の日本推理作家協会は、1947年に江戸川乱歩が中心となり設立された日本探偵作家クラブが前身で、作家をはじめ、書評家や翻訳家、漫画家などで組織されている。そんなミステリーに造詣が深いプロ集団が選考を行い、受賞作は講談社から刊行、フジテレビによって映像化される。他の新人賞に比べると高額の1000万円の副賞も魅力的である。

今回、取材に応じてくれたのは、講談

社文芸図書第二出版部の小林龍之さん。

「江戸川乱歩賞はミステリーの新人賞として長い伝統を誇る権威ある賞。それだけにレベルの高い作品が求められますが、受賞後は文芸に携わる多くの人が非常に注目されることは間違いありません」

現在、第一線で活躍している作家のなかにも過去に江戸川乱歩賞を目指し、何度も落選を繰り返したという人物も多い。それほどハードルが高く、だがチャレンジしがいのある新人賞なのである。

## 高いハードルにひるまず

## 果敢に挑戦を！

事務方として選考の様子を見守る小林さんに、応募作品の注意点についていくつか伺ってみた。

「ミステリーというジャンルにしばられて、小説としてのおもしろさを失っている作品をたびたび目にします。それでは本末転倒になってしまいますので、謎解きだけにこだわらず、小説としても読み込ませる作品を心がけてください」

基本的なことだが、原稿枚数を間違え

## DATA

主催 日本推理作家協会  
原稿枚数 400字詰原稿用紙  
350枚～550枚。  
締切 2013年1月31日  
発表 「小説現代」2013年7月号  
賞 江戸川乱歩賞＝江戸川乱歩像／  
1000万円／受賞作の印税  
選考委員 石田衣良 京極夏彦  
桐野夏生 今野敏 東野圭吾  
応募総数  
第58回 367編  
第57回 324編  
第56回 387編

※応募の詳細は51ページ参照。

るうっかりミスも多いという。

「特に気をつけたいのが、ワープロ原稿。最初に設定した文字数や行数が間違っていて、規定の枚数に入っていないことがあります。その場合は失格になるのでくれぐれも注意を」

小林さんがさらに指摘したのが、資料に頼りすぎた作品。ここ数年、よく見られる傾向とか。

「資料の内容を書き写しても選考委員には見抜かれてしまいます。実力のある書き手なら、ストーリーの中にうまく溶け込ませて、おもしろく読ませることができはずです。原稿を書き上げたあとに、冷静な気持ちになって推敲を重ねてほしいですね」

新しい才能と大いなる可能性を持つ受賞作家との出会いに毎年、胸が躍らされると話す小林さん。

「なんといっても江戸川乱歩賞は、新人賞の中でも特別な存在。受賞すればあの作家活動に必ずプラスになります。レベルは高いですが、その名にひるむことなく高みを目指して挑戦してください」

## 選考の流れ

## 一次選考

7名の書評家によって選考。第58回は一次通過は98編。

## 二次選考

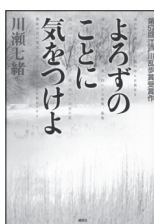
7名の書評家によって選考。第58回は22編が二次通過。

## 三次選考・最終選考

7名の書評家によって選考。第58回は5編が三次通過し、最終選考へ。

第57回受賞作  
「よろずのこと  
につけよ」

川瀬七緒



呪術の研究を専門にする文化人類学者・仲澤大輔のもとに、1ヶ月前、祖父が惨殺された少女が訪ねてくる。手掛かりとなるのは変死体のそばで偶然見つかった「呪術符」。呪いで人が殺せるか。殺人と呪いの謎に仲澤と少女が体当たりで挑む。

## 第57回受賞作

## 「完盗オンサイト」

玖村まゆみ



「報酬は1億円、皇居に侵入し、徳川家光が愛でた樹齢550年の名盆栽「三代將軍」を盗み出せ」。前代未聞の依頼を受けたフリーライター・水沢淡（とある）。空前の犯罪計画は予測不能の展開に。淡が繰り出す旋破りの奇策とは？

## 第58回受賞作

## 「カラマーゾフの妹」

高野史緒



世界文学の金字塔『カラマーゾフの兄弟』。ドストエフスキーが構想しながら書けなかった「第2章」がここに描かれる。カラマーゾフ家の次男・イワンが特別捜査官として町に舞い戻り、家族が抱えていた闇がついに解き明かされる。

# 第33回 横溝正史 ミステリー大賞

## プロ作家としての 将来性にも注目

「横溝正史ミステリー大賞」は、日本のミステリーの巨匠、横溝正史の名を継ぐようなエンターテインメント性の高い作家を生み出していこうということで始まった新人ミステリー作家の登竜門である。

受賞作品の傾向はバラエティーに富んでいるが、「過去から現在までの受賞者の方たちの作品傾向が、結果としてこの賞のカラーを作り出しているのだと思います」と語るのは角川書店の足立雄一編集長だ。

「たとえば、第29回横溝ミステリー大賞、テレビ東京賞をW受賞の大門剛明さんの『雪冤』は『冤罪』をテーマとした社会派ミステリー。第15回受賞者の柴田よしさんの『RIKON 女神の永遠』は、女性刑事が活躍するエンターテインメント性の高い作品です。この賞についてはオールジャンルでエンターテインメント性の高い作品が輩出される賞だと感じています。去年の長沢樹さんの『消失グラフ』

『デーション』などは、ミステリー業界での評価が高く、学園ミステリーの体裁の中に大ネタを仕込んであるというものでした」

しかし、どの受賞作についても言えることは、プロ作家としてやっていける将来性を感じさせることだという。

「選考委員の作家の方たちは、その応募者が受賞後、プロとして作品を残している方かどうかというところも見ています」と思います」

## 読者を意識した 客観的な視点が必要

この「プロとしての将来性」とは具体的にどういうことだろう。

「過去に他の賞に応募した作品を改稿して再応募される方も多いのですが、プロの作家を目指すのであれば、作品を次々と作り出し、かつ、読者の期待に応えるものを作るという意識が必要です」

自信作を多少アレンジした形で複数の賞に出品するというやり方は自己満足の域を超えず、読み手を想定していないと

## DATA

主催 角川書店  
原稿枚数 400 字詰原稿用紙  
350 枚～800 枚。  
締切 2012 年 11 月 5 日  
発表 2013 年 4 月、受賞者に通知  
賞 大賞＝400 万円  
選考委員 綾辻行人 北村薫  
馳星周 坂東眞砂子  
応募総数  
第 32 回 160 編  
第 31 回 137 編  
第 30 回 223 編

※応募の詳細は 50 ページ参照。

いう点で好ましくない。応募して最初の他者（読者）は予選委員、そして選考委員であり、受賞後は編集者の目にさらされ、その先に読者がいる。

「プロ作家になり、複数の出版社から依頼が来るようになれば、過去の作品に手を加えただけでは間に合わなくなります。毎年新しい作品で公募にチャレンジしていくという姿勢が望ましいですね」

さらに、信頼できる人に、投稿前に作品を読んでもらうというのも他者を意識して書く訓練になると足立氏。

「エンターテインメントは読者をもてなす表現。驚き、怒り、悲しみなど、気持ちを揺さぶるような感動を読み手に与える面白い作品を期待しています」

また、プロの作家に共通して言えることは「人間観察力の鋭さ」だと足立氏は語る。「たとえば、編集者の言葉を非常に細かく覚えていたりする。人間に対する興味が強いということでしょうね」すなわち、他者を理解し、どう面白がらせるかという意識がプロの作家になる条件のひとつなのではないだろうか。

## 選考の流れ

### 一次選考

予備選考委員の人数、願ふれは非公開。第32回の場合は、16編が通過。2月にウェブと「野性時代」誌上で発表。

### 二次選考

予備選考委員の人数、願ふれは非公開。第32回は4編が通過。3月にウェブと「野性時代」誌上で発表。

### 最終選考

4名の選考委員が最終候補作品を読み、討議のうえ決定。4月にウェブと「野性時代」誌上で発表。受賞作は9月刊行予定。



第31回受賞作  
『消失グラフィティ』  
長沢樹

高校のバスケット部員椎名康は、女子バスケット部の網川緑が屋上から転落する場面に遭遇。康は転落した緑を助けようとするが、わずかの隙に緑は忽然と消えてしまう!? 監視された空間で起こった目撃者不在の少女消失事件。複雑に絡み合う謎と真相に、多感な若き探偵たちが挑む!



第30回受賞作  
『お台場アイランド ベイビー』  
伊与原新

東京を襲った大震災から4年、息子を喪った刑事くずれのヤクザ異丑寅寅は、不思議な魅力を持った少年と出会う。彼の背後に浮かび上がる謎——消えていく子供たち、埋蔵金伝説、姿なきアナキスト、不気味に姿を変えつつある街——すべての鍵は封鎖された「島」、お台場に!



# 第17回 日本ミステリー 文学大賞新人賞

## 目に留まるのは 「スタイル」のある作品

今年で17回目となる「日本ミステリー文学大賞新人賞」。長年、ミステリー文学に貢献してきた作家を表彰する「日本ミステリー文学大賞」と同時に創設されたこのミステリー界を背負って立つような新人を発掘する新人賞との二本柱でスタートした。

創設の趣旨に「新鮮な魅力と野心に満ちた才能を求めて、広義のミステリー小説を公募、選出するために創設された賞である」とうたわれている通り、これまでの受賞作は本格ミステリーにこだわらず、幅広い内容のものが選ばれている。「もっとも大きな謎は人間だと思うので、広義で言えば、あらゆる小説はミステリーだと個人的には思っています。とはいえ、ミステリーの新人賞ですので、人を惹きつける何らかの不可思議な感覚や謎の要素などが選考の基準になってくると思います」（光文文化財団・北村一男氏）広義のミステリーとしているため、実

に多種多様な作品が集まるが、テイストや傾向の全く異なる作品を評価する場合はどうなるのか。

「第一に『面白い作品である』というところが基準です。その面白さとは、その人なりのテーマやスタイルがあるかどうかだと思います。新人賞ですから、文章の巧拙については必ずしも評価の対象になるわけではありません。文章は書き続けるうちに巧くなっていくもの。あくまでも作品の魅力とこれからの可能性を重視しています」

## 長く書き続けられる 新人に期待

では、応募する際にはどのような点に気をつけたらよいのだろうか。

「いつも選考の際に問題になるのは、過去に他の賞に応募した作品で応募してこられる場合です。ご本人にとつての自信作ですので、気持ちは分かりますが、やはり、これからデビューして作家として次々と作品を生み出していこうとするのであれば、新たなオリジナルの作品で臨

んでいた方がいいですね」

賞の特徴、選考委員の顔ぶれなどによって「傾向と対策」を練る前に、これだけはぜひ読んでおくべきという一冊を、北村氏があげてくれた。

「それは、日本推理作家協会編著による、そのものずばり『ミステリーの書き方』（幻冬舎刊）です。ミステリーのプロ中のプロたちが、いかにして作品を生み出すか、きわめて実践的に秘密を明かしてくれています。必読ですね」

受賞後は担当の編集者がつき、作品作りにおけるさまざまなサポートを受け、2作目を目指す。しかし、最近はい前に比べて本が売れにくく、1作目以降の売れ行きが芳しくない場合もあるという。

「これだけ公募がある中で、一つの新人賞をとったぐらいではすぐに埋もれてしまいます。売れっ子作家としての下地ができるには、少なくとも受賞後数年を要するので、めげずに書き続けてほしい」受賞後も長く書き続けられる情熱とテーマを持って臨むことが、受賞に至る鍵なのかもしれない。

## DATA

主催 光文文化財団  
原稿枚数 400字詰原稿用紙  
350枚～600枚。  
締切 2013年5月10日  
発表 「小説宝石」2013年12月号  
賞 日本ミステリー文学大賞新人賞  
＝500万円  
選考委員 あさのあつこ 笠井潔  
今野敏 藤田宜永  
応募総数  
第16回 166編  
第15回 157編  
第14回 168編

※応募の詳細は51ページ参照。

## 選考の流れ

### 一次選考

予備選考委員は7名、氏名も公開している。第15回の場合は各自3編ずつ推薦作をあげ、20編が通過。

### 二次選考

予備選考委員全員により、再度20編を読み、ランク付けし、4編を候補作に。

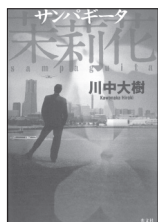
### 最終選考

4名の選考委員が候補作品を読み、討議して選ぶ。10月下旬（予定）の選考終了後、ウェブサイトおよび「小説宝石」12月号誌上で発表。

### 第15回受賞作

#### 『茉莉花』

川中大樹

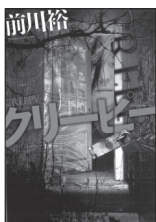


尽誠会巴組の組長・水谷優司の幼馴染み・神楽武雄が刺殺された。事件の謎を追った優司は、フィリピンの女性を妊娠させた日本人を武雄が恐喝していたことを知る。

### 第15回受賞作

#### 『クリーピー』

前川裕



杉並区の住宅街の一戸建てが三軒。大学教授の高倉家は夫婦2人。隣は4人家族の西野家。向かいは老親子が住む田中家。ごく薄いつきあいの隣人同士の関係は、田中家が失火炎上するのを契機として大きく歪みはじめる。



# 第3回 アガサ・クリスティー賞

## 世界も注目！ ミステリーの女王の冠を掲げた文学賞

「アガサ・クリスティー賞」は、数多くの海外文学を手掛ける早川書房によって、アガサ・クリスティー生誕120周年にあたる2010年に新設された長編の公募新人賞。外国の作家の冠がついたミステリー賞では、日本では初めてとなる。

「英国アガサ・クリスティー社公認の公募は、これまではドイツで短編の文学賞が行われていましたが、長編ミステリーは私たちが初めて。戦後いちはやくアガサ・クリスティーを日本で紹介し、長い関係を築いてきたからこそ実現できた文学賞です」

そう話すのは、早川書房の千田宏之さん。国内外で言わずとれたミステリーの女王の冠がついた賞に輝けば、当然、世界からも注目が集まる。

「東野圭吾さんの『容疑者Xの献身』の英訳版がアメリカ最大のミステリー文学賞であるエドガー賞の最優秀長編賞にノミネートされるなど、日本のミステリー

が海外でも注目されています。私たちは多くの外国作品を扱っている関係上、海外へのパイプを持っているので、いずれは新人作家を世界に発信していくことも可能だと思います」

募集しているのは広義のミステリーで、要項には「アガサ・クリスティーの伝統を受け継ぎ、発展、進化させる総合ミステリー小説を対象とし……」とある。その伝統とはどんなことだろう。

「アガサ・クリスティーの作品には、本格ミステリーからサスペンス、冒険小説、スパイ小説、ロマンスまであり、バラエティーに富んでいます。彼女はあらゆるミステリーの引き出しを持っています。つまり、常に新しいことにチャレンジしたのがアガサ・クリスティーという作家だと思っています。多彩なジャンルで100冊近い作品を編み出したアガサ・クリスティーの姿勢を受け継ぐ気概を持った方

にぜひチャレンジしてほしいですね」

選考委員が作家に限らず、翻訳家、書評家と多彩な顔ぶれなのも、アガサ・クリスティー賞の特徴のひとつである。

## 来たれ！ 21世紀のアガサ・クリスティー

記念すべき第1回受賞作は、ライターとして漫画作品を手掛けていた森晶磨さんの『黒猫の遊歩あるいは美学講義』。

アガサ・クリスティー作品でもおなじみの連作短編で、昨年10月に出版されて以来、すでに三刷が発行され、ヒット作となっている。続編となる2作目の『黒猫の接吻あるいは最終講義』は今年5月に刊行された。

第1回授賞式では、アガサ・クリスティーのお孫さんにあたるマシュー・プリチャード氏の講演が行われたという。

「プリチャード氏は、いっしょに宝探しや物語の読み聞かせをしてくれた祖母のアガサはふだんから控えめで、とても気遣う性格だったと話していました。しかし、その一方では常に人間観察を行っていたんだそうです」

そんなミステリーの女王の姿勢を念頭に置きながら、21世紀のアガサ・クリスティーを目指してみたい。

### DATA

主催 早川書房／早川清文学振興財団  
原稿枚数 400字詰原稿用紙400枚～800枚。  
締切 2013年1月31日  
発表 2013年7月（予定）、ウェブサイト、「ミステリマガジン」、「SFマガジン」誌上  
賞 アガサ・クリスティー賞＝100万円  
選考委員 有栖川有栖 北上次郎 鴻巣友季子 「ミステリマガジン」編集長  
応募総数 第1回127編

※応募の詳細は50ページ参照。

### 選考の流れ

#### 一次選考

5名の書評家によって選考。第1回の場合は応募総数127編のうち一次通過は10編。結果は、4月に「ミステリマガジン」、「SFマガジン」誌上、およびウェブサイトで発表予定。

#### 二次選考

社内の編集者が選考。第1回は一次通過10編のうち5編が二次通過。結果は5月から6月にかけて「ミステリマガジン」、「SFマガジン」誌上、およびウェブサイトで発表予定。

#### 最終選考

選考委員が最終候補作品を読み、受賞作を決定する。結果は7月下旬にウェブサイト。8月売りの「ミステリマガジン」、「SFマガジン」には選評なども掲載。受賞作は10月刊行予定。

#### 第1回受賞作

#### 『黒猫の遊歩あるいは美学講義』

森晶磨

24歳にして美学・芸術専門の大学教授に起用された「黒猫」と、その付き人役であり、ボオを研究する大学院生。そんな「彼」と「彼女」が日常のミステリーを解決する6編の連作短編。美学理論の講義を通して、その謎を解き明かしてゆく。



## 第23回

# 鮎川哲也賞

多少荒削りでも、今後の  
伸びしろを重視したい

アリバイ崩しを得意とする鬼貫警部を  
探偵役とした『ペトロフ事件』『黒いト  
ランク』などで知られ、新人の育成にも  
力を入れた本格推理作家・鮎川哲也。

氏の名を冠した「鮎川哲也賞」では、  
本格推理のスタイルを貫いたミステリー  
を募集している。募集要項には「創意と  
情熱溢れる鮮烈な推理長編」とあるが、  
具体的にはどのような作品が好まれるの  
だろうか。

「あつと驚かせてもらえればそれに越し  
たことはないですが、謎解きだけが重要  
なわけではありません。トリックやネタ、  
設定を含めて斬新でバランスが良く、読  
み物として楽しめることが第一です」

主催の東京創元社・神原佳史氏（編集  
部課長）は語る。「長編」とあるが、連  
作でも問題ないそう。さらに、「既視感  
のあるものでも、今後の伸びしろを感じ  
させるものであればいい」と続ける。応  
募作自体は多少荒削りでも、「引き出し

が多そう」「別の方向性でも書けそうだ」  
という印象を抱かせた場合、高く評価さ  
れることも少なくない。

逆に、好ましくない作品については、  
「ミステリーでないもの（毎回何作かは  
応募されるそう）」「有名な作品に似てい  
るもの」、さらに要項には書かれていな  
いが、「他賞への二重投稿」も避けてほ  
しいとのこと。

## 受賞者は3作出版 作家としての貪欲さが大事

新人を発掘するための賞だけに、受  
賞者に対しては「1作で終わってほしく  
ない」という気持ちの主催者側にはある  
ゆえに、「貪欲に書いていきたい」「作家  
として食べていきたい」という気概のあ  
る方は大歓迎。実際、そうした応募者が  
増えているという。

こちらも明文化されてはいないが、受  
賞者については、受賞作を含めて基本的  
に3作は出版できる体制をとっている。  
受賞後には担当編集者がつき、受賞作を  
出版するための改稿を重ねながら、次作

## DATA

主催 東京創元社  
原稿枚数 400 字詰原稿用紙  
360 枚～800 枚。  
締切 10月31日  
発表 「ミステリーズ! vol.59」  
誌上  
賞 鮎川哲也賞＝印税全額  
選考委員 芦辺拓 北村薫 辻真先  
応募総数  
第22回 140 編  
第21回 140 編  
第20回 148 編

※応募の詳細は49ページ参照。

についての打ち合わせを進める。ネタ出  
しやシリーズ化の模索はもちろんだが、  
受賞者は書きためた原稿を持っている場  
合が多いので、その作品の推敲なども行  
っていく。

目標は、受賞作の出版から1年以内の  
新作刊行。「期限は特に設けていません  
が、毎年何十人という新人作家がデビュ  
ーしているという現状があります。鮎川  
哲也賞には賞自体のファンの方もいらっ  
しゃるのですが、せっかく『受賞作だか  
ら』と読んでくれた方に忘れられてしま  
う状況は避けたいですね」と神原氏。だ  
からこそ、書き手には貪欲な姿勢が求め  
られるのだ。

最後に、神原氏から応募者へのエール  
をお願いした。

「出版不況と言われる昨今ですが、鮎川  
哲也賞受賞を機にデビューした作家さん  
は、その後も長く活躍しているケースが  
多いのが特徴。本格推理を書きたい方は、  
ぜひ応募してください」

本格ミステリーブームの到来を予感さ  
せる、未来の大作家の登場が待たれる。

## 選考の流れ

### 一次選考

東京創元社編集部内にて審査。第22回は  
17編が通過。結果は12月末頃、同社ホー  
ムページ「鮎川哲也賞」で発表。

### 二次選考

編集部内にて審査。第22回の場合は5編  
が通過。結果は翌1月末頃、同社ホーム  
ページで発表。

### 最終選考

選考委員が最終候補作をすべて読み、討  
議のうえ4月初旬に決定。結果は同社ホ  
ームページと隔月刊誌「ミステリーズ!」  
で発表（同誌には選評も掲載）。10月初旬  
に授賞式が行われ、通常はそれまでに受  
賞作を刊行する。

### 第20回受賞作

『ボディ・メッセージ』  
安萬純一



アメリカ。依頼者宅で就寝していた  
探偵二人が大きな物音で目覚めると、  
一面の血の海に切断死体が。警察を  
呼び現場に戻ると、それらは消え去  
っていた。そこへ日本人探偵・被砥  
功児が颯爽と登場する。

### 第21回受賞作

『眼鏡屋は消えた』  
山田彩人



気がつくとも8年間の記憶が失われ、  
高校時代に逆戻りしていた教師・千  
絵。その間に親友も亡くなっていた。  
その死の謎を解き、彼女の残した脚  
本を文化祭で上演させるため、千絵  
はイケメン戸川に真相を探ることを  
依頼。



第6回

# 島田荘司選 ばらのまち福山 ミステリー文学新人賞

## 自治体では国内初の 長編ミステリーの新人賞

日本の本格推理界を代表する作家・島田荘司氏の発案によって、2007年からスタートした「ばらのまち福山ミステリー文学新人賞」（通称・福ミス）。

広島県の東端に位置する都市・福山市といえば、国の史跡に指定される福山城や、280種5500本が咲き乱れるばら公園、そして最近では宮崎駿監督のアニメ映画「崖の上のポニョ」の舞台となった鞆の浦などで知られている。さらに忘れてはいけないのが、井伏鱒二をはじめ、随筆家の福原麟太郎、小説家の日野啓三、劇作家の小山祐士らを輩出した文学都市であること。島田荘司氏自身も高校生までこの地で過ごしている。

取材したのは、現地で賞を運営する福ミス実行委員会事務局の原寛子さん。

「地方で行われる新人文学賞といえば短編作品が多いのですが、『福ミス』は自治体では初めてとなる長編ミステリーの公募を行っています。受賞作はすぐに出版

版化され、講談社、光文社、原書房の3社が1年ごと順番で刊行しています」

審査方法がユニークで、第一次審査は3段階に分けて発表される。まず1回目に全国から一般公募で集まった選考委員が上位優秀者を決め、この結果をもとに各出版社の編集者による選定が2回目に発表される。3回目は「編集者推薦枠」というもので、1回目で落選した作品に再び編集者が目を通し、強く興味を魅かれた作品をすくいあげる、いわば敗者復活戦が設けられている。

「市が公募しているからカタいストーリーがよいと勘違いされることもあるのですが、それは一切ありません。ドロドロとしたミステリーでも大歓迎です。規定枚数の中で自由に創作してください」

### 最終審査は

### 島田荘司氏が一人で

最終選考は島田荘司氏が一人で決定するの福ミスならではのスタイルだ。

「選評もすべて島田先生自身が行います。自分の作品を読んでもらいたい」と目

### DATA

主催 福山市・島田荘司選ばらのまち福山ミステリー文学新人賞実行委員会  
原稿枚数 400字詰原稿用紙350枚～800枚程度  
締切 2013年5月10日  
発表 2013年10月（予定）、入賞者に通知  
賞 新人賞＝トロフィー／印税全額／福山特産品  
選考委員 島田荘司  
応募総数  
第5回 89編  
第4回 65編  
第3回 59編

※応募の詳細は49ページ参照。

標を持って応募される方も多いですね」

受賞後は担当編集者がつき、次回作に向けてバックアップしてくれる。ちなみに第1回（2008年度）優秀作『少女たちの羅針盤』（水生大海著／原書房）は、若手人気女優の成海璃子らの主演で昨年映画化され、ロケは福山市内で行われた。2作目はこの続編になる青春ミステリー『かいぶつのもち』（原書房）で、デビューの翌年に上梓されている。

「島田先生がよく口にされるのは、『二作目、三作目と書き続けられるパワーのある新人を求めていくこと』。本気で作家を目指す人にぜひ挑戦してほしいです。そして私たちスタッフとしては、福山市を舞台にした長編ミステリーの受賞者がいつか現れることを期待しています」

授賞式は、春恒例の「福山ばら祭」が開催される5月。福山市の花になっているばらは、戦後の焼け野原に地元の人々が復興の願いを込めて植えたのがもともとのはじまりだという。城下町を華やかに彩る百花繚乱のばらがミステリー界の新星を祝福してくれる。

### 選考の流れ

**一次選考**  
一般公募による選考委員と各出版社の編集者によって3段階に分けて選考する。第4回は一次通過20編。

**二次選考**  
各出版社の編集者が選考。第4回は一次通過20編のうち4編が二次通過。

**最終選考**  
選考委員の島田荘司氏が4編の最終候補作品を読み、受賞作を決定する。

#### 第3回受賞作 『鬼畜の家』

深木章子



保険金目当てに家族に手をかけていく母親。その母親も自動車と子ども夜の海に沈み、末娘だけが生き残った。巧妙な殺人計画、娘への殺人教唆、資産の収奪など、「鬼畜の家」の実体が、娘の口から明らかにされる。

#### 第3回受賞作 『檻の中の少女』

一田和樹



サイバーセキュリティ・コンサルタントの君島のもとに、自殺支援サイト『ミトラス』に息子が殺されたという老夫婦が依頼に訪れた。真相を解き明かし、老夫婦の依頼に応えたとき、隠されてきた真実が見え始める…。

#### 第4回受賞作 『誰がための刃 レンデントール』

知念実希人



末期癌に冒された若手の外科医・岬雄貴。連続殺人鬼「ジャック」の思想に感化され、その共犯者となる。しかし、偶然助けた少女と心を通わすうちに自らの行動に苦悩し、残りわずかな命をかけて少女のために戦いを挑む。



## 第35回

# 小説推理新人賞

「新しい切り口」とは？」

「小説推理新人賞」は、1979年に創設され、大沢在昌、湊かなえなどを輩出した歴史ある新人賞である。また、最近では珍しくなった短編ミステリーの賞でもある。

今回は、募集要項にある「広義の推理小説を対象とする」という点について、選考基準を聞いてみた。

「広義の推理小説っていろいろな考え方があると思いますが、謎で読者を引っ張っていくという小説であれば良しとしています。SF風の作品もありますし、ハードボイルドもあります。もちろん、本格推理系もあります。そういう意味での『広義』なのです」と「小説推理」編集長の中堂龍介氏は語る。

さらに選考で重視する点を聞いたところ、「新しい切り口での作品を期待しています」と同編集部の白鳥千尋氏は答えた。「新しい切り口」とは具体的にどのようなことなのか？

「新人の賞なので、既視感のあるような作品ではなく、独自の視点、テーマが光る作品を期待します。もちろん、完成度は選考基準の一つではありますが、一番重視したいのは独自の視点、オリジナリティーなのです」

去年の受賞作品も、「これこそ自分が書きたいものだ」という情熱が滲み出た、力強い作品でした、と白鳥千尋氏は語る。力強い個性があるかどうか、作家として将来性があるかどうかという評価につながる、と、中堂龍介氏は話してくれた。

「最終選考に編集部があげる候補作は、熱意が感じられる作品や、既存の作家にはない切り口で描かれた作品にしたいと思っています。もちろん面白いことが大前提ですが」

推敲と勘の鋭さが、  
受賞の鍵となる?!

応募作品を書く際の注意点についてお二人に聞いてみた。

「話として成立していないものがあつた

を高める努力をされたほうがいいと思います」と中堂龍介氏。

加えて白鳥千尋氏は、「2次、3次選考に残った作品の中で良いと思っていても、謎解き部分の辻褄が合っていない、残念ながら最終選考には残せないという作品もあり、そういう作品はもったいないと思います」と話す。

中には一人で何編も応募する人もいるとのことだが、一編を推敲することを優先させたほうが多い場合も多いとのこと。まずは自分の作品を読者として読んでみる必要がある。

また、たとえば壮大な構想があつたとしても、その作品が原稿用紙80枚に収まりきれぬ内容かどうか、見定める勘の良さも必要であるとのこと。

最後に応募者へ寄せる期待を聞いた。「我こそは次のミステリー界のトップに立つぞという志のある方、そういう作品を期待しています」

受賞後は担当編集者がつき、1年を目安に単行本デビューを目指す。まずは大いなる熱意を作品に込めて欲しい。

## DATA

主催 双葉社  
原稿枚数 400 字詰原稿用紙  
80 枚以内。  
締切 2012年 11月 30日  
発表 「小説推理」2013年 8月号  
賞 入選＝100万円  
選考委員 荻原浩 近藤史恵  
笹本稜平  
応募総数  
第34回 346編  
第33回 337編  
第32回 309編

※応募の詳細は50ページ参照。

## 選考の流れ

**一次選考**  
予備選考委員の人数、顔ぶれは非公開。  
第34回は36編が一次通過。

**二次・三次選考**  
選考は編集部にて行う。第34回は21編が2次通過。3次通過はそのうちの6編。

**最終選考**  
選考委員が最終候補作をすべて読み、討議の上で決定する。



第30回受賞者新刊  
『こらしめ屋お蝶花暦  
寒中の花』  
浮穴みみ

江戸日本橋の御茶漬屋女主人・お蝶は悪事には拳を上げ、困っている者がいれば助けずにはいられない性分だ。お蝶は店を切り盛りしながら、人々の厄介事を解決させてゆく。人情と女心の機微を豊かに描いた連作時代小説。



第32回受賞者デビュー作  
『読めない遺言書』  
深山亮

平凡な教師の竹原は、家を出て孤独死した父の部屋を訪れた。そこで見つけた遺言書は、見ず知らずの人物に宛てられたものだった。その人を追い始めた途端、尾行、盗撮、放火と、立て続けに事件に巻き込まれ――。

# 第10回 ミステリーズ！ 新人賞

気軽そうで意外と難しい  
短編ミステリー

「ミステリーズ！新人賞」は、鮎川哲也賞と同じくミステリー出版の老舗・東京創元社による主催ではあるが、こちらは鮎川哲也賞とは対象的に広義のミステリーを求めている。

4000字詰原稿用紙換算30～100枚という短編だけに、「初めて書いてみました」というケースも多く、応募は年々増加傾向。さらに、数年ごとに入れ替わる選考委員（作家）のファンからは「あの先生に読んでほしい」という思いからの応募も。男女問わず、幅広い層から作品が集まるという。

「作品数も前回（第9回）は大幅に増え、作品自体にも全体的にレベルアップしている」と実感しました。

と語るの、東京創元社・神原佳史氏（編集部課長）。

通常は2次選考の次が最終選考なのだが、このときは審査が難航し、変則的に第3次選考を設けたという。

注目度も高まる一方の同賞だが、応募時の注意点はどんなところだろうか。

「短編という手軽に書けそうと思いがちですが、ミステリーを短くまとめるのは実は難しいんです」

トリックの謎解きばかりに重きを置きすぎた結果、物語としてのバランスが崩れてしまうものも少なくないという。

独りよがりな感じやトリックのみを強調した押しつけがましさがなく、読み物として楽しめる作品であることが大前提である。

シリーズ化されれば、  
書籍化の道は近い

明言されているわけではないものの、受賞作についてはなるべく書籍化したいという思いが編集部側にはあるという。ただし受賞作は短編なので、1作だけで本にするのは難しい。

「7月に受賞作が決まった時点で、受賞者とは10月発売の『ミステリーズ！』掲載に向けた改稿などについての打ち合わせを行います。同時に、どのようにした

## DATA

主催 東京創元社

原稿枚数 400字詰原稿用紙  
30～100枚

締切 2013年3月31日

発表 「ミステリーズ！」vol.80

賞 ミステリーズ！新人賞＝  
30万円

選考委員 新保博久 法月輪太郎

米澤穂信

応募総数

第9回：574編

第8回：496編

第7回：514編

※応募の詳細は49ページ参照。

ら書籍化ができるかという方向性についても話し合います。具体的には、連作にするのは可能か、次回作を時間をおかず

に書けそうかなどという話ですね」  
よって、応募者には「何が何でもデビューする」というバイタリティーが求められる。また、シリーズ化がイメージしやすいものや、エンターテインメント性が高い作品が受賞しやすいという傾向も少なからずあるようだ。

基本的なことだが、枚数計算もしっかり行うように心がけたい。  
「字数のみで計算される方もいますが、改行などを含め、必ず20字×20行の原稿用紙で換算してください。規定外のものは、当然ながら審査対象外になってしまいます」

ちなみに、上限の100枚に無理に近づける必要はなく、規定範囲内であれば短くても問題はないそうだ。  
広義のミステリーを標榜し、実験的なテキストや展開なども受け入れられやすい雰囲気のある同賞。想像力を駆使した力作で、受賞を狙いたい。

「字数のみで計算される方もいますが、改行などを含め、必ず20字×20行の原稿用紙で換算してください。規定外のものは、当然ながら審査対象外になってしま

## 選考の流れ

一次選考

編集部にて審査。第9回は1次通過は84編。

二次選考

編集部にて審査。第9回は39編が3次選考に。

三次選考

通常は2次審査の次が最終選考だが、第9回では審査が難航したために3次選考も行った。編集部にて審査し、7編が最終選考に。

最終選考

選考委員（第9回は桜庭一樹、新保博久、法月輪太郎）が最終候補作をすべて読み、討議のうえ7月末に決定。10月初旬に授賞式が行われる。

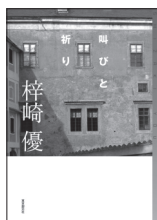
隔月刊誌  
『ミステリーズ！』



ミステリーの出版の老舗である東京創元社が発行するミステリー専門誌。『ミステリーズ！新人賞』を主催。特集記事や連載、刊行記念著者インタビューなどのほか、毎月翻訳短編も掲載。毎偶数月12日発売。

第5回受賞作を含む単行本  
『叫びと祈り』

梓崎優



砂漠に行くキャラバンを襲った連続殺人、スペインの風車の丘で繰り広げられる推理合戦、ロシアの修道院で勃発した列聖を巡る悲劇など、ひとりの青年が各国で遭遇する数々の異様な謎。受賞作『砂漠を走る船の道』ほか5作収録の短編連作集。



# 第11回 北区内田康夫 ミステリー文学賞

## 文豪に愛された北区主催の文学賞の特徴とは？

北区田端には、かつて芥川龍之介、室生犀星、堀辰雄ら文豪や芸術家が住み、その後、文芸芸術家が誕生、数々の名作を生み出した。

「北区内田康夫ミステリー文学賞」は、その文化的イメージを発信するため、かつて北区に住んでいた内田康夫氏の協力のもと、2002年に創設された自治体文学賞である。

応募要項には「北区の地名や人物、歴史を入れ込んだ作品を歓迎する」とあるものの、選考の基準にはならないとされている。それでも北区に足を運び、学芸員に何度も質問し、北区の歴史を調べあげ、それをベースに作品を書く応募者も多いと聞く。

「文学賞を通して、北区のことを知っていただけのもともうれしいことです。ただ北区が登場することは歓迎していませんが、直接的な選考の基準にはなっていません」

と広報課の尾形美保氏は話す。

では、実際の受賞作は北区について取り上げていたのかどうか聞いてみた。

「第9回大賞受賞作は王子についてかなり調べていただいています。第10回大賞受賞作は北区について特段載っているわけではないんです。ですからあくまでもミステリーの短編小説として成立しているかどうかが基準になります」

あくまでも、ミステリーとして話が落ちているかどうか、謎解きが完結しているかどうかが大切なことだ。

## 推理小説の基本をおさえ、小説としても面白いものを

劇団により受賞作を劇化し、北区の劇場「北とぴあ」で1日限りの上演会が開催されるという点も、北区主催の文学賞ならではの特徴であり、自分の作品が舞台化され、感動する受賞者が多いそうだ。

ただし、舞台化はあくまでも受賞後のイベントであり、芝居になることを想定して作品を選ぶことはない。

「たとえ舞台にしようという設定だとしても、

## DATA

主催 北区  
原稿枚数 400字詰原稿用紙40～80枚。ワープロ原稿32字×40行（A4用紙横置きに縦書きで印字）12.5枚～25枚  
締切 2012年9月28日（必着）  
発表 2013年3月下旬（予定）、入賞者に通知  
賞 大賞＝100万円  
選考委員 内田康夫 ほか  
応募総数  
第10回 293編  
第9回 283編  
第8回 268編

※応募の詳細は50ページ参照。

優れた作品であることが受賞の対象」とのことだ。

応募者の年齢層は幅広く、下は中学生から、上は91歳の応募者までいる。海外からの応募も毎年あるとのこと。多くのアマチュアに愛されている賞でもある。もちろん、高田郁氏などのプロも輩出している。

「内田康夫先生も、『最近では新人の登竜門の一つになっているんじゃないか』と語っていらつしました」

応募する際の注意点を聞くと「中には応募規定からだいぶ外れてしまっている作品もあるので、規定は守って欲しい」、また最後に「文学賞に出すのか迷っているのであれば、ぜひ挑戦してほしいです」と話してくれた。

400字詰原稿用紙で40枚からの短編は、初心者にはとりかきやすいような印象があるが、内田康夫氏は『はじめての小説』の中で、短編のミステリーは「じつは難しい」と綴っている。謎解きの整合性だけでなく、小説としての完成度も求められるからである。



第1回～第5回の大賞受賞作品を収録した『内田康夫選・編「はじめての小説」』（実業之日本社）

## 第10回受賞作『凶音窟』山下歩

若い同僚・未海との関係を知り、妻が子どもを連れて実家に戻って半年。武居は未海との連絡も取れないまま、マンションの管理組合役員として受ける住民の苦情にも辟易としていた。そんな中、幼児期のトラウマにつながる不快な音が部屋に響いてくる。その音とは……。

## 第9回受賞作

### 「神隠し 異聞『王子路考』」安堂虎夫

歌舞伎役者・菊之丞（俳名：路考）の一周忌追善公演が近づくと、興行主の志摩屋と豊島屋の息子が相次いで神隠しにあう。程なく二人とも田端村の稲荷で無事発見されるが、今度は追善公演で初舞台を踏む路考の養子・権次郎がいなくなる。

## 選考の流れ

### 一次選考

選考委員の人数、顔ぶれは非公開。9月28日に作品募集締め切り、12月下旬に第1次通過を通知。

### 二次選考

選考委員の人数、顔ぶれは非公開。1月下旬に電話で第2次通過を連絡。

### 最終選考

内田康夫氏、北区長などの選考委員が最終選考候補作をすべて読み、討議の上で決定する。  
大賞受賞作品および特別賞受賞作品は、月刊誌『ジェイ・ノベル』（実業之日本社）に掲載。



第20回

# 日本ホラー小説大賞

## 固定観念に縛られない ホラー作品を求む！

1993年に角川ホラー文庫が創設され、その1年後、「日本ホラー小説大賞」は創設された。「ホラー小説」を明確なジャンルとして確固たるものにした、ホラー文学界における先駆的な賞だ。

「面白いけれど、どこにカテゴライズすればいいのか分からないもの」って潜在的にあったと思うんですね。ホラーの賞は当時はなかったで、そういう作品の受け皿として創設されたのではないかと思います」と角川書店第一編集部野崎智子氏は話す。

「鈴木光司氏の『リング』はもともと横溝正史ミステリ大賞の最終候補に残っていた作品だったのですが、純然たるミステリーではないということで受賞できなかったんです。でもすごく面白いということ、91年に単行本で刊行されました。その時点での売れ行きはそこそこだったのですが、93年にホラー文庫で刊行したら案の定大ヒットしました」

カテゴリーを明確にすることが作品の売れ行きにもつながる。ではホラーの定義とは？ 応募要項にある「広義のホラー小説」とはいったいどのようなものか聞くと、「ジャンルレス」とのこと。

「基本的に恐怖や戦慄、あやかしや怪奇の要素があれば、広義のホラー小説と言えるのでは。今までの受賞作品もミステリーやSF、サスペンスなど、様々なジャンルを内包したものでした」

また応募作品を書く際の注意点を聞いたところ、「ホラーとはこういうもの」という固定観念にはとらわれないで欲しい」と野崎智子氏は言う。ホラーに対する固定観念に縛られてしまい、作品がパターン化されがちなのだという。

「ホラーだから暗くて気持ち悪いとか、残虐で不気味な描写がなくてはいけないというわけではありません。カラッと笑えるホラーだっていいわけです。恐怖の感覚って人間にとって普遍的なものだと思うので、ありとあらゆるところに潜んでいるものだと思うんですね。日常のちょっとしたことにも恐怖が潜んでいる

### DATA

主催 角川書店  
原稿枚数 400 字詰原稿用紙  
150～650 枚。  
締切 2012 年 11 月 30 日  
発表 2013 年 5 月（予定）、  
最終候補者に通知  
賞 大賞＝500 万円  
選考委員 荒俣宏 貴志祐介  
高橋克彦 宮部みゆき  
応募総数（長編部門）  
第 19 回 317 編  
第 18 回 196 編  
第 17 回 264 編

※応募の詳細は 51 ページ参照。

## 他の応募作より、突きぬけた 何かがある作品が求められる

かもしれない。そんな日常を切り取って

大賞作については受賞が決まったら担当編集者がつき、半年弱で単行本を刊行する。また第19回目から長編賞・短編賞がなくなり、「読者賞」を創設。最終選考委員の選考とは別枠で、書店員と読者の有志を募って選考、受賞作は角川ホラー文庫から刊行される。

選考基準について野崎智子氏は、「エンターテインメント性のある作品のほうがいいと思います」と話す。

また作品の完成度よりも「勢い」や一点突き抜けた面白さが評価される場合もあり、受賞はできなくてもホラー文庫から刊行される作品もあるという。

最後に「1回で諦めずに何度も応募してください」と野崎智子氏は話してくれた。第19回の受賞者の小杉英了氏を含め、何度も応募する人も多いのだとか。粘る熱意と覚悟は必要不可欠だと言える。

### 選考の流れ

- 一次選考  
第19回は15編が通過。
- 二次選考  
第19回は5編が2次選考を通過。
- 最終選考  
4名の最終選考委員が最終候補作をすべて読み、討議の上で決定する。結果と選評はウェブと「小説野性時代」「本の旅人」面誌上で発表。

※第19回大賞受賞作「御役」（小杉英了）、10月下旬、単行本で刊行予定。同読者賞「ホーテッド・キャンパス」（榎木理宇）、10月25日、角川ホラー文庫より刊行予定。



第18回短編賞受賞作  
『穴らしきものに入る』  
国広正人

穴、穴、穴。なぜか穴に入る魅力に目覚めた僕は、ホースや同僚の口を手始めに、どんな穴でも入りたくなるようになった。その欲望の果てにあるものは？ 卓抜したユーモアセンスが評価された受賞作他4編を収録。



第18回長編賞受賞作  
『なまつま』  
堀井拓馬

醜悪で激臭を放つ生き物ヌメリヒトモドキは人間の記憶や感情を学習する。その生態を研究する「私」は、死んだ最愛の妻を蘇らせようとヌメリヒトモドキの飼育に熱中していく。悲劇的な結末に向かって……。